

出題傾向

大問数6, 設問数45で, すべて4肢択一式の選択問題。内容は, 「会話文問題」「発音問題」「長文空所補充問題」「文法・語法問題」「整序作文問題」「長文読解総合問題」が各1題という構成である。難易度については, 長文問題に「標準レベル」の設問が一部含まれるが, ほとんどは「基本レベル」の問題である。英語が比較的得意な人はかなりの高得点が可能である一方で, そうでない人にとっては, しっかりと勉強をしておかないと差が開きやすい問題となっているので注意が必要だ。

学習対策

それでは, 英語学習にあたっての具体的なアドバイスをしておこう。

◆会話文問題

会話文問題では, やや長めの会話文に関する問題と, A, B二人の短い対話文に関する問題の2種類が出題されている。どちらも会話文特有の表現を知らなければ答えられないというものではないが, have a reservation「予約している」やMy pleasure。「どういたしまして」といった基本的な表現は押さえておく必要がある。会話文としては素直な内容の出題であるが, 45問中10問と, 全設問に対して会話文の占める割合は小さくないので, 本学の過去問や易しめの会話文の問題を使って, 適切な応答が選べるよう練習しておくことが望ましい。

◆発音問題

出題されているのは基本的な単語で, いずれも発音問題に頻出の語である。ふだんから, 辞書を引いたり単語集で単語を覚えたりする際に, 正しい発音とアクセントを確認する習慣をつけることが何よりも重要である。また, sweater, technique, orchestraなどのように, 日本語でもカタカナ表記で使われることがある語については, 英語と発音やアクセントが異なるものが多いため, 特に注意して学習するようにしたい。

◆文法・語法問題, 整序作文問題

高校までの授業で学んだ文法や構文がきちんと理解できていれば, 十分得点できる内容の出題である。理解できているかどうかの確認のために, 薄めのものでよいので, 「文法・語法問題集」を1冊解いてみるとよい。1題1題どうしてそうなるのかをしっかりと確認し, 苦手な単元を残さないようにすることが大切だ。

◆長文問題

長文問題としては, 空所補充形式の問題と, 読解総合問題の計2題が出題されている。空所補充形式の問題は, 文法や構文に関するものではなく, 前後の文脈に合う語を選ばせる内容となっている。読解総合問題では, 空所補充形式で語彙や文脈の理解を問う問題, 下線部の語の説明を選ぶ問題, 内容一致問題, タイトルを選ぶ問題など, 設問はバラエティに富んでいる。この2題の長文問題は, 一見異なる出題形式のように見えるが, どちらも語彙力と内容理解の両方を試す問題であるという点では共通している。まずは高校の教科書や単語集などを使って「単語・熟語力」を確実なものにしていくと同時に, 「構文を正しく把握」し, 「英文の内容を正確に理解する」力を身につけることを目標に学習を進めていこう。本学の過去問のほかにも, 長文問題集などを使ってさまざまな設問形式の問題を解いてみると, さらに効果的である。